

大会宣言

我が国の労働災害は、関係者のたゆまぬ努力により、長期的には着実に減少してきたが、昨年、一昨年と二年連続で災害発生件数が増加した。このような事態は、実に三十三年ぶりのことであり、さらに、本年もその増加傾向に歯止めがかからず、極めて憂慮すべき状況にある。

特に、これまで着実に減少していた製造業や建設業の労働災害が増加に転じ、また第三次産業などにおいて災害減少の兆しが見られない。

この背景には、安全管理体制が確保されていなかったり、弱体化することなどによって、リスクアセスメント、危険予知活動、安全衛生教育等の労働災害防止への自主的な取り組みが低下していることがあるのではないかと懸念される。

いかなる経済情勢下にあっても、労働災害はあってはならないものである。

今日のこのような状況を打破するため、事業場の安全衛生活動を今一度総点検し、安全管理体制の充実、個々の労働者の状況に即した効果的な安全衛生教育の実施、創意工夫に基づく効果的な自主的安全衛生活動の実施などの取り組みを徹底するとともに、これらを推進する人材の養成など、事業場における安全管理の基盤を強化していくことが必要である。

本大会を契機に、労働災害の増加傾向に歯止めをかけ、労働災害による犠牲者をこれ以上出さないという強い決意のもと、すべての関係者が一丸となって、労働災害防止対策に取り組むことを誓う。

右、宣言する。

平成二十四年十月二十四日

第七十一回全国産業安全衛生大会